

事務局便り

令和3年5月10日

新年度の忙しさが連休で一息つけた！と言っていたこれまででしたが、多くの地域で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出されていた“非日常の連休”になってしまいました。

令和3年度第1号をお届けいたします。**【訂正】p.27の2つのQRコードが期限切れになってしまいました。ホームページにて、新たなURLを掲載しています。**

—令和3年度の研究大会、及び夏期研修会の詳細が決まりました—

***第71回研究大会 8月18日(水) オンライン (Zoomによる開催)**

同封した 第71回 全国家庭科教育協会研究大会 のご案内をご覧ください。研究発表と校種別研修会を主とした一日の開催といたします。Zoomによるオンラインですので、遠方の方でも交通費・宿泊費がかからないので、皆様奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

オンラインに不慣れな方でも大丈夫です。“はじめの一歩”始めてみませんか？

ホームページに、常任理事の大学の先生がつくってくださった Zoom操作の分かりやすい解説 を載せてありますので、ダウンロードしてみて、実際の画面を見ながらやってみると中々面白いですよ。

公立の小学4年生になった孫は、昨年度末に学校から配付されたiPadタブレットを使ってZoom授業（今後に備えて、教室で実験的に体験したそうです）をつい先日経験したらしく、挙手機能のボタンを押したりして面白かったと話してくれました。私がふざけて、チャット（質問する・意見を言う）してみた？とか、ビデオ（顔出し）を切っちゃったりして…などと茶化したら、「そこは使っちゃ駄目！」って先生が言ったよ、などと夕食時の話題になりました。

例年好評のご講演は、今年の一日程では実施できないため、機関誌「家庭科」3号「研究大会特集」に、東京都市大学名誉教授 IGES（地球環境戦略研究機関）シニアフロー 中原 秀樹 先生にご依頼し、「家庭科教育に期待するSDGs」を寄稿いただくことになりました。拝読できるのを楽しみにしています。

午後の校種別研修会

小・中学校部会：文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 丸山 早苗 先生による「**家庭科における『指導と評価の一体化』のための学習評価**」の講義を中心に研究協議をします。

高等学校部会：新潟大学大学院教育実践学研究科 教授 高木 幸子 先生による「**主体的な学びを支える高等学校家庭科の授業づくり**」の講義を受け、テーマに沿って研究協議のワークショップを行います。



3月27日に行った「春期研修会」でのグループワークは、時間が足りずやや不消化気味になってしまいましたが、今回はその反省も踏まえて、スムーズな運営を心掛けたいと思っています。ご期待ください。

*「授業に生かす衣生活研修会」

東京で開催（広い会場で、少人数での実施です）

時間の少ない「家庭基礎」でもでき、いくつあっても便利でたむのが簡単なエコバッグ、若者を中心に流行のサコッシュ、日常で活用できる魅力的な題材ができました。詳しくは、同封のご案内（裏に申込書）をご覧ください。

コロナの収束が見えないため、「授業に生かす食生活研修会」は残念ですが、開催できません。

<年度当初雑感> “金融教育”、どのように指導しますか？

さて、高等学校は来年度入学生から新学習指導要領の実施となります。家庭科では、「家庭基礎」「家庭総合」ともに、家計管理について、従前にはなかった 株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴（メリット、デメリット）、資産形成の視点にも触れるようにする という記述が入りました。

先生方は既にご存じのことと思います。

このことに関して、私共事務局には、多方面から問い合わせがあります。例えば、金融教育を精力的にやっている先生を紹介してほしい、家庭科向けの金融教育関係の資料を作成するので、協力してくれる先生を紹介してほしい、関係筋からは家庭科教育に寄与できると思うので賛助会員になりたいと思っている（←こちらは大歓迎！）等々です。

二重線で示したのは、指導要領解説の記述です。株・債券・投資に全く縁も興味もない人間からすると、特徴（メリット・デメリット）を理解させるので大丈夫だとは思っていますが、次に書かれている資産形成になるのかどうか、やたら気になるのでした。現場の先生方はどんなふうを受け止めていらっしゃるのかな？と考えたりしていました。

そこで、第68回研究大会の講演講師であった大和総研調査本部 主席研究員 河口 真理子氏のご講演“社会を良くするためにお金に働いてもらおう”（平成29年度 機関誌「家庭科」3号 第68回研究大会特集号）を再読してみました。（その際のスライドは、ホームページの左側コンテンツ「研究大会」をクリック、平成29年度第68回研究大会で見ることができます。）

河口氏は、「金融」の本質は「お金を融通させること」、平たく言うと、社会を発展させるために、それぞれが持っている金融資産を社会に効率的に配分する仕組みである。そして、貯める・投資する（この二つは自分のため）・寄付する（人のため）の3つは全然違うと思われがちであるが、お金が行った先では社会のためになるという共通点がある。投資と寄付の共通点は自分で行き先を選べること。日本で株式投資をギャンブルと考える人が多くなった歴史的な理由などを上げながら、預金も投資も金融資産なので、自分への見返りも重要ではあるが、それだけでなく社会的な見返り考えることも大切である。目先儲かるかどうかで投資先企業を判断するのではなく、その企業が収益を上げながらも、女性の活躍を支援しているのか、CO₂削減をしているのか、途上国の人権問題に配慮しているかなどを調べて投資することも最近では増えているとのことでした。

また、SDGsもお金につながっていて、ESG投資やソーシャルファイナンスと言われる投資はお金の面からSDGsを支援することになり、お金の流れを変えて世界をより良い方向へ動かそうとするものである。

こういう世界の状況の中、私達一市民は何をするか。この会社は中長期的に社会のためになるか、地球環境を良くしてくれるか、子どもの世代に役に立つのかという視点で会社を選び、そのようなところで働いたり、その製品を買ったり、投資するなどいろいろな立場から企業に関わることができる。すると、企業も社会的に良いことをすることが、雇用・売上・投資の面でプラスになる。更に新しい良い事業をやる人も増えるという好循環ができる。その鍵を握っているのは、最終的にお金をもって私たちの意思決定であり、企業が何をやっているのかということを広い視野に立ってチェックすることも大事なことである、というお話でした。

再読して、高校家庭科での“金融教育”の方向性が見えた気がしたので、ご紹介しました。